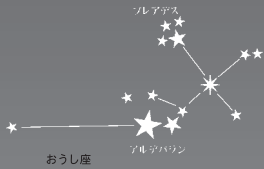


ポラリスを仰ぐ北の大地から



網走市救急医療体制への雑感

網走医師会 会長 金川 有一

今年の4月から網走市休日内科急病センターが厚生病院内に設置されました。これによりセンターと在宅当番による輪番体制との併用で網走市の休日救急当番は運営されることになりました。ここ数年来、休日対応可能な医療機関の減少と、医師や看護職員の高齢化と減少のためぎりぎりの状態ですべての救急医療は運営されていました。年末年始や冬期の航空機の運行が不安定な時期には札幌と東京からの医師の派遣ができないとのことで、在宅輪番体制のみでの対応となるが、住民への多大な負担を強いることなく良好な運営が新体制に期待されます。

医療資源が絶対的に少ない地方では、医療インフラの破壊が取り返しのつかない事態を生じることになります。網走市立看護専修学校の閉校に始まり臨床研修医制、今回の専門医制とますます地方には住みにくいことになります。

多くの制度も少しずつ改善できると良いと思います。



M先生と「天声人語」

十勝医師会 会長 栗林 秀樹

中学時代の国語の恩師M先生がお亡くなりになったと知らせを受けた。10年ほど前に80歳を迎えたのを機に札幌から本州の息子さんの所へ転居され、そこでお亡くなりになったとのことだった。数少ない尊敬すべき先生の一人であった。先生の思い出の一つに「天声人語」がある。「天声人語」は言うまでもなく朝日新聞のコラムである。その「刊行にあたって」と「あとがき」にその語源について「天に声あり、人をして語らしむ」とあるが、それは間違いだと思いますと授業で熱く語って下さったのを思い出した。私は中学一年で、当時は良く理解できなかったが、結論だけは覚えていた。正しくは「天に声無し、人をして語らしむ」だと思いますというのが先生のご意見だった。今になってそのことが気にかかり自分なりに多少調べてみた。「広辞苑」天ニ口ナシ人ヲ以テ言ハシム（天は口が無いから言わないが、人の口によって天意を言わせる）「義経記」天に口無し 人を以て言ふ 「平家物語」天に口無し、人を以て言はせよと申す 「壇浦兜軍記」天に口無し人を以て言はしむとは今思い当たった。

さらに文進堂漢和辞典（細見佐熊）・永岡書店ことわざ格言辞典・日東書院ことわざ辞典（臼田甚五郎）もすべて「天に口無し、人をして言はしむ～語らしむ」となっていた。天に声（口）ありとなっている物は見つけれなかった。確かに言われてみると中国の易姓革命の思想は、「天は自分で声を発することができないため、民の声は天の意を示すものであり、民の中に怨嗟の声が上がった時は天命がその時の天子のもとを去った時だ」というものである。

小生の急ぎ働きでも答えは明らかだと思えた。先生がご存命であったら何十冊も資料を見せて下さったに違いない。